

# 産禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産禅洞診療所  
 ◎ 呼吸器疾患・アレルギー・漢方相談  
 診 察 日：月曜・水曜・金曜  
 受付時間：9:00～12:00  
 〒502-0017 岐阜市長良雄越878-16  
 IP Tel: 058-296-9545  
 FAX: 058-296-3903  
 E-mail: sazendo@ccn.aitai.ac.jp  
 http://sazendo.kg.tamr.web.tel/

第44号 2012.1.1  
 毎月7日発行 産禅洞発行 松井英介

## 迎春



南天

## 難を転ず

2012年 元旦 松井英介

食食同源といいますが、いのちと健康を維持する上で、食が一番大切なものです。その食が新たな危機に貧しています。

2011年は大災害の年でした。新年を迎えても、問題は何も解決していません。被災現地の人びとは、とても「新年おめでとう」とは言えない気持ちなのです。

多くの子どもたちは放射性物質で汚染された土地に住み続けています。お腹に赤ちゃんを抱えたお母さんやお乳を飲ませているお母さんも同じです。汚染の少ないところに避難したいと思っても、動けないのです。

政府は、事故現場は“冷温停止”したとして、避難規制を外し汚染地域に住み続けさせようとしています。“人間は放射性物質と一緒に暮らせる”と考えているかのようです。

政府が推し進めているのは“除染”です。ゼネコンに億の単位の税金を与え、彼らの支配下、現場で危険な作業を強いられるのは、被災現地の人びとです。現に南相馬市では、スーパーゼネコン・大成の指揮下、子どもを連れだお母さんが高濃度汚染地域の除染に動員されているのです。除染では問題は解決しません。何と不条理なことでしょうか。

除染ビジネスで多額の利潤を上げるスーパーゼネコンは、原発を推し進めてきた政官財権学・原子力村ペンタゴン（五角形）の一角を占める張本人であることを、この際確認しておきましょう。一方、事故現場からは大量のストロンチウム90を含む汚染水が溢れ出しています。政府は3月以降汚染水を海に流すと発表しています。漁民、農水省は異議を唱えています。

下がり続けてきた日本の食糧自給率は今や40%以下に落ち込んでいます。放射性物質・農薬・食品添加物・遺伝子組み換え技術で食の汚染が進んできたところへ、今回の事故で大量の放射性物質が加わりました。新たな複合汚染です。

安全な食の自給100%を！ 集団疎開の権利補償を！ 子どもたちのいのちを守る難転の年にするため、知恵と力を集めましょう。